



平成 18 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社マルハグループ本社
代 表 者 名 代表取締役社長 五十嵐 勇二
(コード番号 1334 東証第一部)
問 合 せ 先
経営企画本部広報・IRグループ長 川 文 人
(TEL 03-3216-0821)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 5 月 22 日公表の業績予想(平成 19 年 3 月中間期および平成 19 年 3 月期)を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成 19 年 3 月中間期業績予想の修正(平成 18 年 4 月 1 日~平成 18 年 9 月 30 日)

(中間期 連結)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中間純利益
前回発表予想(A)	365,000	8,000	3,200
今回修正予想(B)	365,000	6,200	1,100
増減額(B-A)	-	1,800	2,100
増 減 率	-	22.5%	65.6%
前期(平成 17 年 9 月期実績)	348,322	7,043	1,153

(参考) 今回予想営業利益 6,400 百万円 (前回予想営業利益 9,000 百万円)

(中間期 個別)

(単位:百万円)

	営 業 収 益	経 常 利 益	中間純利益
前回発表予想(A)	3,700	1,100	1,100
今回修正予想(B)	3,650	960	270
増減額(B-A)	50	140	830
増 減 率	1.4%	12.7%	75.5%
前期(平成 17 年 9 月期実績)	3,519	1,091	1,149

(参考) 今回予想営業利益 980 百万円 (前回予想営業利益 1,100 百万円)

2. 平成 19 年 3 月期業績予想の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（通期 連結）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	750,000	16,500	5,500
今回修正予想（B）	750,000	12,500	4,000
増減額（B - A）	-	4,000	1,500
増減率	-	24.2%	27.3%
前期（平成 18 年 3 月期実績）	719,275	12,084	4,647

（参考） 今回予想営業利益 14,500 百万円 （前回予想営業利益 19,500 百万円）

（通期 個別）

（単位：百万円）

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	7,500	2,100	1,900
今回修正予想（B）	8,400	2,700	1,900
増減額（B - A）	900	600	-
増減率	12.0%	28.6%	-
前期（平成 18 年 3 月期実績）	6,914	2,159	1,787

（参考） 今回予想営業利益 2,700 百万円 （前回予想営業利益 2,100 百万円）

3. 修正の理由

（連結業績）

当中間期の業績につきましては、水産セグメントにおいては、養殖魚の市況堅調による国内養殖事業の増益がありましたが、荷受事業は在庫の早期販売の徹底により減益となり、戦略販売事業ではまぐろなどの加工原料価格高騰によるコストアップのため減益となる見込みです。また、事業改善に取り組んでおります海外えび合弁事業は昨年に続き欧州向け禁輸の継続や原油価格の更なる高騰により大幅に収支が悪化する見込みです。食品セグメントは、加工食品事業でカップゼリーの販売が順調に伸張し増収となりましたが、冷凍食品の原料価格上昇によるコストアップなどにより減益となる見込みです。また、特別損失には、昨年に引き続き不振でありました海外えび合弁事業に対して事業損失引当金 14 億円の計上を予定しております。

以上により、売上高は 3,650 億円、経常利益 62 億円、中間純利益は 11 億円となる見込みです。

下期におきましても、欧米を中心とする世界市場における水産物需要の高まりや原油価格の高騰などによる水産物のコストアップ傾向により、厳しい事業環境が予想されます。特に、北米事業における漁業環境悪化による操業効率の低下、引き続き事業改善に取り組んでいる海外えび合弁事業における欧州向け禁輸の継続等の事業環境の悪化、アジア・オセアニア事業における水産加工原料価格の更なる高騰および新規事業参入の遅れなどが見込まれるため、通期業績予想を上記の通り修正いたします。

(個別業績)

当中間期は平成 18 年 8 月 28 日に開示しました子会社株式の売却損失 5 億円の発生に伴い、中間純利益は 3 億円となる見込みです。

なお、下期においては営業収益の増加により経常利益は増益となり、当期純利益は前回公表通りとなる見込みです。

- * 上記業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上